

## 北海道大学交流デー（ヘルシンキ大学）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、3月2日（木）・3月3日（金）にフィンランドのヘルシンキ大学と連携して大学交流デーを実施しました。

ヘルシンキ大学は、フィンランドの首都ヘルシンキにあり、1640年に設立された学生約31,000人、教職員約7,800人が在籍する総合大学です。本学とは2011年3月に大学間交流協定を締結しています。

開会式には、ヘルシンキ大学マウラネン副学長の他、教職員、学生等が、本学からは、寺尾宏明理事・副学長をはじめ、各研究科等からの教職員が出席したほか、在フィンランド日本国大使館の小山裕基参事官にも出席いただきました。

開会式では、まず本学の寺尾理事・副学長から挨拶があった後、小山参事官から祝辞をいただき、その後、本学欧州ヘルシンキオフィス所長の成田吉弘教授から大学の概要等の説明、スラブ・ユーラシア研究センター田畑伸一郎教授からスラブ・ユーラシア研究の紹介、アイヌ・先住民研究センター加藤博文教授から先住民研究の紹介、ヘルシンキ大学マウラネン副学長、北極域研究センター大塚夏彦教授から北極域研究の紹介がそれぞれ行われた後、ハルコネン・フィンランド共和国北極担当大使から祝辞を頂きました。

開会式の後は、昼食を挟み、スラブ・ユーラシア研究センターの田畑伸一郎教授、保健科学研究院の横澤宏一教授、アイヌ・先住民研究センターの加藤博文教授、教育学研究院の大野栄三教授、大学院地球環境科学研究院の加藤優助教、獣医学研究科の滝口満喜教授が、それぞれ代表となる分科会に分かれ、活発な研究交流を行いました。

今回の大学デーには本学の幅広い研究分野の教職員・学生等36名と在フィンランド日本国大使館、フィンランドの教職員・学生等122名の参加があり、両大学間の交流が促進されましたが、今後もヘルシンキオフィスでは、欧州諸国の教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、学術面にとどまらない幅広い面での交流を強化していきます。